

光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家

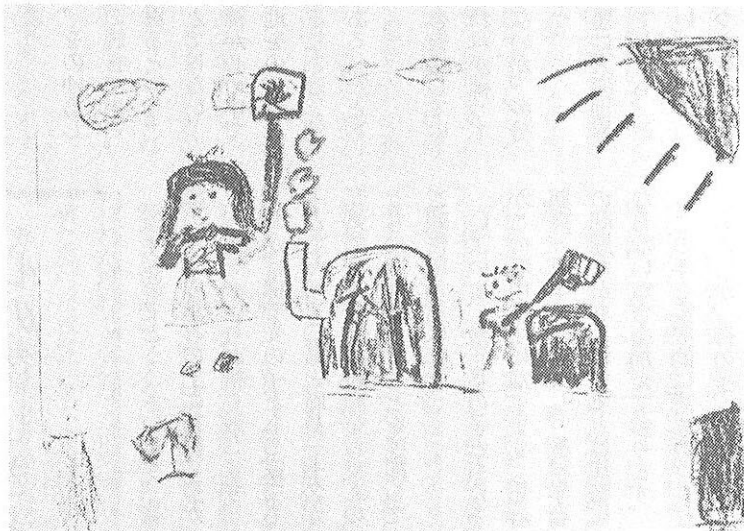
編集／光の子 編集委員会

〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277

TEL／0480-72-3883

振替／東京3-128022

印刷／(株)ドモン企画



ばらぐみ みなもと まさし

あけまして

おめでとー

ございます

契約のにじ

(創世紀6章9節)

理事長 福島 勲

新しい年を迎えた。

新しいということは普通古いもの

のより、より良いものを意識する。

去年より、より良い年であることを

を祈念する。

古いものは過ぎ去った、見よ、

すべてが新しくなったのである。

(第二コリント五：17)とあるの

は人間の古い罪の存在がキリスト

によって新たにされたということ

である。

しかし、そういうわれわれのど

こが新しくなったのか。内に省み

て相変らず正義感が乏しく、争い

を好み、愛にはほど遠く、金銭や

色欲や名譽欲にギラギラと輝いて

限らない悪徳に充ちた存在である。

創世記では、人間が与えられた

自由を乱用し、悪に悪を重ね「世

は神の前に乱れて、暴虐が地に満

ちた」(六：十二)とある。

そこからノアの洪水物語りがは

じまる。

洪水が起きてすべてのものが滅

ぶ。ノアとその子らはつがいの動

物たちと箱舟によって救われる。

神はノアと契約を結ばれる。こ

の後二度とこのようなカタストロ

フィは起こさないと。そして、虹

をかけてしるしとされた。

あの七色の美しい虹が神の限り

ない恵みのしるしなのである。

虹が太陽光線のスペクトルであ

ることを、旧約聖書の著者が知っ

ていたか否かを問うことはできな

いが、今日われわれの考え得る次

のことは、必ずしも聖書から逸脱

しているとは思えない。

すなわち虹の色は内側から順に

紫、あい、青、緑、黄、だいたい、

赤と並んでいる。

色はある意味を表徴する。教会

では紫はキリストの受難を記念す

る週間に、赤は聖霊降臨の記念の

ときに、壇の被いなどにそのいろ

のものを用いている。

いわば、悲しみと喜び、失望と

希望をあらわす色である。

心の貧しき者

施設長 今関 公雄

虹に見る色はまさに神の悲しみと喜びの表徴といえよう。人間の罪の悲しみ、そのゆるしと救いの喜びと希望の輝きである。人が新しく生まれ更なるということは自力でできることではない。八章二節には、神が心の中で「二度と人のゆえに地をのろわぬ。人が心に思い図ることは、幼い時から悪いからである。」とある。

旧約の著者が文章を省略しているの、読者のわれわれが補って解説しなければならぬが、多分こういうことであろう。

すなわち、人間の悪は天変地異のごとき刑罰をもってしても、改変できるものではない。ただ神のゆるしの恩寵のみ、つまりイエスキリストの十字架の恵みによる以外にはない。これこそ新しい契約であり、人生の望みの虹である。ということであろう。

暴虐の世界である。しかし、キリストに望みをおいて新しい年を歩みたい。

新年おめでとうございます。皆様の本年の歩みの上に神様の豊かな祝福を心よりお祈り致します。

おかげ様で光の子どもの家でも子どもたち三〇名と職員一七名が元気で、四度目の新春をお支えのうちに迎えましたことを感謝してご報告申し上げます。

いよいよ、最年長の子どもたちがこの春中学生になります。思春期真っ只中へと突入し、教科学習の問題などもこれまでとは比較にならない重さを加えて参ります。

この年も家庭的に恵まれない子どもたちが、神の子、光の子としての、心身共に健やかな成長を祈り、その養育に精励していく思いを新たにしております。

さて、施設現場に身を置きながら、この仕事の社会的意義について考えさせられることがあります。直接的な、目に見える福祉活動は、事情によって家族と家庭で生活できなくなった子どもたちの養

育活動であります。光の子どもの家では、彼らの情緒の安定と涵養自立への能力の向上と育成を図るために、少数の子どもを責任をもって担当し、家庭的な養育が出来るよう努力してきました。

間接的な、表面には現れない重要な福祉活動があります。それは私たちの活動を支えて下さっている福祉の精神であります。

光の子どもの家の場合、児童施設の現場への熱病のような情熱ばかりの無一物での出発が、予測さえ出来なかった困難な開設当初となり、マスコミの良心的報道に共感されたご支援の方々もまた、総じて子ども時代の労苦の軌跡を共有している方々であります。

寝食を共にして暮らしを創るという、手間ひまのかかる家庭的処遇を指向しているところから、共助の心に基づく福祉の精神によるご支援の重要性、貴重さは、より切実に感じています。誤解を恐れ

ず、率直に言えば、まさに共助の心——貧者の一灯の集積によってここまでくる事が出来ました。障害者の福祉に取り組んで先駆的な働きを展開している西ドイツのベールが、数少ない大財閥ではなく、たくさんの方々の貧者の一灯にその支えを依拠しているということでもあります。

光の子どもの家の歩みもまた、結果的に「貧者の一灯」を基盤としております。

「貧者の一灯」それは、重荷を負って痛み苦しむ人々に、いと小さき自分の持つ大切な宝を提供し仕えることであると考えます。そのことは、その重荷を共に担い、その人生を分かち合い、共感の世界を共有することに展開していきます。共に生き、共に育つ世界が拓かれていくのです。

職員たちの子どもへのかわりもまた、欠けたる器としての自己を見つめる時「貧者の一灯」の精神で励む以外に道はないのです。

幸いなるかな心の貧しき者、天国はその人のものなり。（マタイによる福音書五章三節）

俳句エッセー

私と農村

風景と詩情

黛 執（俳人）

ここ七、八年、私はもっぱら農村を詠い続けている。私の第二句集『村道』はその一集成と言ってよいが、その後も私の農村への傾斜は一向に収まりそうもない。相変わらず暇を見つけては、近郷近在の村々を言うに及ばず、遠く信州の山村などを訪ね歩いている。

ある若い俳句作家から「いま日本に村はあるんですかね」と皮肉られた。△村△の原型ともいうべき村落共同体の崩壊を指摘されたのである。たしかに飛躍的な技術の進歩と機械化で、農耕も村の形態も大きく変わった。田植や稲刈や屋根葺きといった共同作業が姿を消したことは事実だし、若者の都会流出が至るところで過疎という現象を生みだしていることも否定できない。だからと言って、それを直ちに△村の喪失△とする考え方には、私は組せない。

それならば、破壊や汚染のすすむいまの日本にはんとうの自然は

あるのか、という設問も同時進行しなければならぬ。農村だけが病んでいるのではない。病理はむしろ逆で、自然が病んでいるから農村も病むのである。だが、こういう論議は詩にとって何の意味も持たない。詩は事実の確認作業ではないからである。

けれども、その上でなお農村は歴として存在する。病んでいるとは言え、いまなお農村には自然と一体になった人々の営みがある。台風や旱魃や異常気象はいまもって大きな脅威であるし、それ故に道祖神や野仏や庚申塚などには供花が絶えず、素朴な土俗信仰が連綿と生き続けている。祭や盆や十夜などといった宗教行事、冠婚葬祭の習俗のなかに村落共同体の姿はまだ色濃く。そういう風土に培われた淳朴で温かな人情や気質もまた農村だけに残るものである。私が農村風土に固執するのは、単にそういう風景や接触が好まし

いからだけでなく、そこに、他では見ることのできない自然と人間の合一の世界が見えるからである。私にとって詩情とは、その接点からのおのずと湧き出てくる感動のことにはかならない。

筑波鎮に 雪かも降らる

否然かも

かなしき子らが 布乾さるかも
万葉集巻十四にある東歌の一つ、十民間に伝承された作者不詳の恋歌である。筑波の山に白く見えるものは降り敷いた雪なのだろうか、それとも愛しいあの娘が乾かしている襦のあとの衣服なのだろうか。と詠う。まず筑波鎮への呼びかけで始まるこの叙情の大らかさといきいきとした恋の息吹には、自然との一体感のなからこそ生まれ出るものである。

大峯あきら氏は、「日本人の伝統的な文化や生き方の根拠を流れているものは、自然というものに對する深い親密さだと思えます。それはヨーロッパ人の云う自然観というものよりもっと直接的な自然の感受で、概念の形ではつかみにくいもの、いわば一種のエーテ

ル、靈氣とでも云うべきものです」と言われている。

人磨呂をはじめとして万葉集がいまなお私たちを強く打つのは、詩が自然との交感を果たすためのエーテルをその様式のなかに持っていたからであり、そのインパクトが時代を超えて私たちを揺さぶるからであろう。やがて詩は、詩としての純粋な自立を獲得してゆく過程で、次第に原初的な靈力を失ってゆく。古今や新古今が絢爛たる文学的開花と引きかえ万葉の雄渾さを手放したのは、詩が自然との交感を放棄して、宮廷貴族の知性と結合したからだと言われる。月並俳句の陳腐と独善を確信するために、万葉回帰を叫んだのは正岡子規であった。いま未曾有と言われる俳句の量的隆盛の一方で現代俳句の新たな月並化が指摘され、質的衰退が問題になっている。万葉回帰などと言挙げする資格は私にはないが、要因の一つに現代俳句が自然との一体化を見失ったことを挙げることはできよう。

私たちの詩（俳句）にとって焦眉の急は、自然の復権であろう。

いつもあたたかい
ご支援ありがとうございます。
今年もよろしく
お願い致します。
鎌田洋子

新年明けまして
おめでとうございます
今年もよろしく
おねがい致します。
中村一男

はじめまして子どもたちと
出会った時の思いを大切に。
子どもたちの家としてありつづ
けるため、本年も頑張ります。
よろしくおねがいします。
田中郁夫

あけましておめでとう
ございます
子どもたちの心にこ
した笑顔がたくさん見られ
る年になるよう頑張ります。
よろしくおねがいします。
坂巻直之

新年明けまして
おめでとうございます
子ども達へ
ほほえみを
こめね一年にしたいと
思っています。
よろしくおねがいします。
海田

賀正
多岐な分野のバナーに軍勢
いとおふるにかがみまわります。
今年もおねがい致します。
竹下由香

新年 賀は かるた

おかげさまで うっへり
まぬけの私も四回日
お正月を迎える事ができました。
今年もよろしくおねい
かし上げます。
栗原

りんごのようにおすめす
しい感性を持った子ども
たちと今年もがんばっていき
たいと思っています。
御支援よろしくおねい
します。
秋元光代

明けまして
おめでとうございます。
いつも
ちから強い
ご支援。本年も有難うござい
ます。どうぞ今年も宜しく
お願い致します。
丹羽



新年あけましておめで
とう
ございます。
この一年子ども達と共に歴史に
歩める年となるよう心を引き締め
がんばりたいと思います。
本年もよろしくおねい致します。
石毛照子

1988年 田中郁夫さん
おめでとうございます
相変わらず新しい一年を
お祝いします。この一年、皆様
の応援をありがとうございます。
（野村 葵）

現場から
輝きのかたち 5

池田 祐子

新年明けましておめでとうござ
います。
今年も子どもたち共々よろしく
お願いいたします。
寒さが一段と厳しくなると、山
茶花が輝くように咲いています。
そんなある日、涙子ちゃんが、
「枝見ちゃん、前にここにいた
の？」他の子どもたちから聞いた
のでしょう、突然聞いてきました
「もう、お家に帰ったの？」
「そうだよ。」
「んじゃあ、私は、いつここから
居なくなるの？」
「そうね。涙子ちゃんが大きくな
って・・ お嫁さんに行く時まで
祐子さんとずーと一緒に居てよ。」
「えー。じゃあ、祐子さんお嫁に
いかないの？」
「うん、もう諦めたの」と少し茶
化して言う。
「んじゃあ、私も諦めたい。」と
無邪気に笑い、決して「私は、
いつお家に帰れるの」とは聞か
ない涙子ちゃんなのです。

な態度で表現されるようになった
ことがあります。
いじけて叱られる。叱られて大
泣きする。そしてまた叱られる。
そんな状態が続いたので対応を変
えてみました。いじけたり、大泣
きが始まったら、私は涙子ちゃん
の視界から消えるようにして見た
のです。時間的には短縮されまし
たが、回数が減ることはありません
でした。別な甘えの表現ができ
るように、ご機嫌な時にお話をし
て伝えるように心がけていました。
十一月の半ばに原田家のみんな
で筑波山に登ることになりました。
半分ほど登ったところで涙子ち
ゃんは、しりもちをついてしまい
大泣きをはじめました。疲れても
きているのでしよう。これまでだ
と立ち止まり、手をかして引き上
げ、なだめて励ましたのですが、
「涙子ちゃん、泣いても誰も助け
てあげられないことだってあるん
だよ。自分で立っておいで」と、
がんばれば、頑張ってよ！叫びた
い思いをこらえて、ちょっと厳し
い試みをしました。他の職員も構
わず通り過ぎ協力してくれました。
祈るような思いでしばらくする
と懸命に追いつけてきます。汗に
まみれた真つ赤な顔で、とうとう
追いつきました。
「すごいな、涙子ちゃん」
「涙子ちゃん、泣いていないよ」
「ばんざい、涙子ちゃん」と倫己
さんも馬鹿な顔をして叫びます。
いじけや大泣きの表現がウソの
ようにこの時からなくなりました。
よく子どもたちをマラソンラン
ナーに譬え、沿道の応援者は多い
方がいいのです、と菅原先生は言
います。家族という応援者が全く
期待できない涙子ちゃんです。
保健証の更新の手続きをお願い
するという田中書記が「何か連絡
したら」と言ってくれたので、涙
子ちゃんの近況と一度お伺いした
い旨を書いて同封しました。どん
な反応があるのか心配でした。も
し反応が全くなかったら・・。
「ぜひ涙子ちゃんに会いたいの
で伺ってもよろしいか」という電
話がお祖父さんからありました。
素敵なクリスマスと、涙子ち
ゃんの嬉しい新しい年がやってき
そうです。

光の子らしく 15

岩崎 まり子

慎んで 新年の お慶びを申し
上げます。
昨年も 皆様のあたたかいご支
援に支えられました。心から感謝
致します。本年も宜しく願いま
す。
皆様のこの年の健康を心から
お祈りいたします。
冬ざれていく園庭を、とりかこ
んでいる山茶花の植え込みの、咲
き並ぶ芽えた赤い花が、ホッとす
るあたたかさを漂わせています。
早いもので、ここへ来て四回目
のお正月を迎えました。最初の年
の夏に二才で入所してきた燦ちち
んと萌季ちゃんは、間もなく六才
に。そして、クリスマスが済んで
間もなく三才でやってきた寛君は
もうすぐ七才になります。
月日はウソのように過ぎ去って
いきます。けれども、大きく、た
くましく成長した子どもたちの姿
や、しぐさが、経過した△時△を

大好きな子どもたちです。
とりわけ、入所した当時の話は
どんな話よりも盛り上がりします。
「萌季ちゃんがね、ここに初めて
来た日にジュース飲んでね、コ
ップの底からまり子さんの顔を見
て、ニコッて笑ったんだよ。あの
時の萌季ちゃんの顔、まり子さん
今でもよく覚えてるよ。」
「えー萌季ちゃんが？エーッ」
と、萌季ちゃんをはじめ、まわり
の子どもたちが声をたててはし
ぎます。「じゃあ、ぼくは？ねー
僕は？」と甲高い声で寛君。
「寛君はね、お部屋にゼンゼン入
れなくて、ずーと階段の所で
スーパーボールで遊んでたんだよ」
「えーッ」照れとも嬉しいともつ
かない甲高い笑い声が部屋中に弾
けます。「じゃあ、燦ちゃんは？」
「じゃあ、悠子ちゃん？」
でも、私に話してやれるのは、
子どもたちが入所してきた二才な
り三才なりの時、生涯の途中から
でしかありません。それ以前のこ
とは伝え聞いたり、想像するしか
ないのです。必要があれば、作り
話をすることもあります。
この子どもたちと同じように、
私も自分の生まれた時のことや、
幼い頃の話を聞くのが好きでした。
話してくれている母や父などに
そんなそぶりを気づけないよう
に、わざと素気なく聞こうと努め
ていましたが、大好きでした。そ
れは、たぶん、過去から現在に至
るまで、そして、未来へ、いつま
でも続くであろう親や家族の変わ
らぬ愛を確認出来る時だったから
だと思います。
いつか、子どもたちも自分の二
才の時の話ではなく、生まれた時
の話を知れたらでしよう。何故
自分がこの世に生を受け、どのよ
うに育まれたか、を、途中から途
中までしか聞かれぬ存在ですが、
その日の為に、毎日の暮らしを共
にしなが、歳月を重ねていくこ
との意味や、価値を、そして、責
任を、この年の初めの時に見つめ
直して、新しい歩みを踏み出そう
と思います。



育

つ その5

竹花 信恵

明けましておめでとうございませう。昨年は、小さな私たちの群れに、たくさんのお心をお寄せ下さり、未熟な働きをお支えいただき心から感謝申し上げます。

この年がともに祝福に満たされますようお祈り致します。

小学生を送り出した早朝、園庭に面したダイニングルームの硝子窓は、冷たく張りつめた外気を遮断し、白く曇っています。次々に起きてきた幼児たちの指は筆、窓は大きなキャンバス、思い思いの絵に、覚えてたの文字や数字も仲間入りしました。心も身体も一回りもふた回りも大きくなって三才の誕生日を迎えた福子も、イスによじ登り、窓に向かいます。点と丸の絵が、いつの間にか、手や足から髪の毛がついて・・・目ざしがまぶしく射し込む頃、みんなの顔が食卓に揃います。

人格の形成にとって三才までの

重要性は、多くの人々に指摘されています。基本的な生活習慣の獲得、豊かな情緒の涵養の時。徹底的な受容がそれを可能にします。

ヨチヨチ歩き、コミュニケーションの手段としての言語を持つていなかった一才児の時に、福子と出会いました。明るいニコニコの笑顔がふりまき、成長をあとから後から追いかけていくような日々といっしょに、季節を一巡りしました。枯れている草花をじっと見て指さし「かわいそーね」とつぶやいて私の顔を見上げるほどの心が育ちました。一番の課題であったトイレトレーニングは、私のたてた目標をはるかに追い越して次々に書き換えなければならぬほどの速さで克服しています。

試験は後半で三才という時に突然やって来りました。どんなに普通の家庭に近づこうとしても、決定的に異なることの一つに、子どもの入退所があります

三人も四人も一度にダッコでなくても、ここを必要としている子どもたちを受け入れることが仕事です。福子を含む四人のグループに幼い入野兄弟の緊急入所。

その当日。いつも何時間かは自分に向かい合ってくれる筈の保母が、思いの全てを集中させている見知らぬ顔の兄弟を、一目見て、火のつくように泣き叫んだ福子。その声はずっと耳に焼きついていきます。人が加わり、友だちが増えることが豊かになることを理解できる訳もありません。順調だったトイレを告知されるとダッコとして中を受けた衝撃は図り知れませんが、トイレを告知されるとダッコとして用を足す段階だったので、幼い頭を働かせ、入野兄弟と関わっている私に「オシッコ！」が連発される。オシッコがでてもでなくても自分の存在を、位置を確かめるように食い入るように私を見つめる瞳。克服したことも出来なくなりました。数ヶ月も後退しました。そんな状況から脱出させたのは余裕をなくした私ではなく、職員との協力と、そして何よりも子ども

たち、育ち合う集団の力を見事に見せてくれました。マイナスからプラスに変わるのに、それほど時間を必要としませんでした。

泣き声が重なった分だけ笑顔も重なり、お互いになくってはならない仲間へと育ち合っていくプロセスをコマ落としてのフィルムのように見せてくれたのです。したい放題の、甘えん坊の末っ子になりそうだった福子に、いつの間にか身についていたがまんする力。身体ばかりでなく、心がたくましくなってきた三歳の誕生日でした。木枯らしが吹き抜ける寒朝、「スカート、スカートがいい！」と、私の出したズボンを自分のタンスにしまいこみ、スカートを出してはこうとします。お気に入りだった青いスカートは残念ながらおなががつかえてはけなくなってしまうが・・・

最も寒い季節のなかでこそ、春への準備が確実になされていきます。福子も広い世界へ向かっていくための歩をしっかりと、しっかりと踏み出し始めました。

養護メモ 19

伝える

菅原 哲男

養護施設光のこどもの家は、事情によって共に暮らすことができない子どもたちに、親や家族や大人が伝えるべきかけがえのないこととを、共に暮らし合う中で伝えきることを願って建てられた。

光の子どもの家のクリスマスは年間行事の頂点をなすものとして計画、実施されて四度を数えた。クリスマスは、大いなるあるものから愛のメッセージとしてのイエスが与えられた——プレゼン

トされた日としてとらえる。

教会暦によるアドベントは、今年は十一月二七日から始まる四週間であり準備の期間である。二六日早朝片道百九〇kmを縦の枝路に走り、夜遅くまでかかって、子どもたちに気付かれないように、クランツやリースを作り、家々の玄関や食堂を飾る。翌朝の子どものたちの待望のまなざしでアドベントの幕があく。毎週の日曜の夕方皆でホールを兼ねた大食堂で礼拝を捧げる。この礼拝は、ある年に

はクリスマスカロルのお話を、他の年には四人の職員が交替わりで最初の週は一に、次週は二に因んでという風に工夫して素敵な思いや美しいお話をしている。今年も丹羽倫己がベープサートでクリスマスメッセージを伝えた。道員だてや話の筋に凝る彼の礼拝は、子どもたちだけでなく職員も心待ちにしていた。その後の夕食会も楽しい。テーブルマスターのリードで、おもしろいお話や歌、ある時には楽器の演奏などで楽しむ。ある年には、クッキーを職員が上手に焼いて一つ、二つと週を重ねる毎に数を増やして皆に配った。今年も可愛い星型チョコだった。

担当者はこの季節、自分の内面に向かい合い、子どもへの思いや伝えたい何かを考える。自分が何故ここで子どもと関わるのか。生きていくことの意味や、こういう大人に成長して欲しいなどのメッセージをつくる。そのメッセージを伝え、それを強化する手段の一

つとしてプレゼントを、出来るだけ手をかけて準備する。用意されたプレゼントをイブの夜、子どもたちが寝静まった頃にサンタクロースに扮した職員が、夢見心地になっている子どもに渡していく。幼い子どもたちはサンタクロースがやって来たと、翌朝、目覚めると有頂天になる。大きい子どもたちは、そんな子どもたちの夢をこわさないように配慮している。

二五日は、教会で礼拝を捧げる夕食は、ここへ来るまでは板前で店の経営もしていた中村調理士が一ヶ月も前から準備して作った豪華なディナーを、お友だちやお客さまを招いて楽しむ。

そして、この季節に練習した、全員参加のページェント。深津文雄先生（かにた婦人の村施設長）の訳・編曲・脚本によるイエス誕生のいきさつを、聖書朗読と歌劇調で演じるものを礼拝として捧げる。そして、最後はお祝いの会。デパートに代表されるコマースヤリズムに奪われた、クリスマスを自分たちのものにしていくために、手作りにこだわる。光の子ど

もの家でなければ出来ないクリスマス、毎年議論を聞かせながら全力を上げて創ってきている。

手間のかからないことがヒット商品のキーワードという。電話やパソコンでハ心の通う贈り物が届けられ、人の関係が結ばれる。デパートでは、手作りよりはるかにスマートなプレゼント用品がハ真心をこめて売られている。それを利用するのもいい。しかし、せめて包装だけは自分の手で。買ってきた靴下に名前を刺繍して。何よりも、プレゼントの品物よりメッセージが大事なことを繰り返して確認させられる。

子どもたちに伝えるべきものは何か。クリスマスの季節を通して、光の子どもの家の設立の根拠に、関わり原点に帰しながら探り出し、磨き上げようと伝える。私たちにできなかった愛や正義に満ちた暮らしのある時代をつくれるような大人になって欲しい。すべての人々の切実な願いを、手をかけて、伝えていくことが光の子どもの家の任務であり子どもたちへの手作りの贈り物である。

日誌

十月十六日
十月二十日

十月十九日 いつも美味しいパン

を沢山下さる栗橋町のペーカリ

ーピエロの奥様が訪ねて下さり

お励ましとお支えを。感謝。

・江森理容店ご主人が数回ご奉仕

三年有余の継続。感謝。

・田口様より日用品のご寄付も。

二二日 小学校の収穫祭。収穫の

粉で大人と子どもでうどんを打

って、食べる。校庭いっぱい

満腹の顔。ごちそうさまでした。

二四日 町内の小城様沢山の衣類

のご寄付。ありがとうございます。

二五日 東京電力久喜営業所より

毎年のご支援。感謝。

十一月二日 栗原中様毎月のお励

まし。ありがとうございます。

十一月三日 第十六回理事会。

・第四回感謝の集い。金子恭雄牧

師の奨励をいただいて感謝礼拝

をホールで捧げた午後、太陽が

輝かせるなかを木枯し一号が吹

き抜ける園庭にご支援の方々百

三十余人が集い、お励ましと歓

談と感謝のひととき。設立準備

当初から反対運動に抗し、信念

をもって支援の羽鳥唱平・針

ヶ谷廣岡氏に感謝状と記念品を

贈呈して感謝の意を表わす。出

席なさらなかった多くの方々か

らのお励まし。・感謝と更

なる前進への決意を新たにす。

十日 県共同募金会より実地監査

に四名来訪。評価と励ましを。

・加須市渋谷様よりお励ましを。

十一日 小学校就学児童の検診。

来春の入学へ胸膨らます七名。

十四日 小角様より衣類を沢山。

ありがとうございます。

・県民の日で学校がお休み。原田

家の三才から十二才までの十二

名が全員筑波山登頂に成功。佐

藤家のみんなはユネスコ村へ。

楽しい一日でした。

二三日 インフルエンザ蔓延。

子どもたちの甘えの顔が並ぶ。

どうしてか坂巻指導員までが。

二五日 針ヶ谷さんや子どもたち

六名が通う町の剣友会の指導者

役員会の毎年恒例の手打ち蕎麦

の会を。材料から飲物まで一切

を持ち寄って下さる。感謝。

二六日 未明、アドベントクラン

ツやリースのための樅の木の枝

を探りに野崎・丹羽指導員が出

発。夜一〇時過ぎに帰り作業を

始め、完成は翌朝四時。

二七日 第一アドベント。玄関や

ホールを飾る。樅の輪に子ども

たちの溜め息と歓声。夕方ホー

ールでクランツのローソク一本

に灯がついて、倫己君のペープ

サートの礼拝と楽しい夕食会。

クリスマス準備始まる。(くら)

公 告

十一月二八日から加須市騎西町方面の方々から、統一原理教会の人が光の子どもの家の名入のチラシを持って靴下二足で五千円、ハンカチーフ二枚で二千円など法外な値段で売りに来たと抗議、問合せが殺到。これまで二回、しんぜん会という団体から全く事情を知らずにご寄付をお受けしていました。十二月初にしんぜん会本部にご寄付を辞退し今後の関係を一切断つことを通知いたしました。不明の故にご迷惑をおかけしましたことを陳謝致します。

光の子どもの家

反 射 光

明けましておめで
とうございます。

これまでのお支え

に心から感謝します。本年も変わ

らないお交わりをお願い致します

☆昨年末は「善意」とその用い方

について随分考えさせられました

☆三欄に取り急ぎ公告しましたよ

うに、十一月末に統一原理教会に

関わる人たちによって法外な押し

売りを光の子どもの家の名前を使

ってされ、多くの人々に迷惑を

おかけしてしまいました☆年若い

人々が今年も浦和駅頭で街頭募金

をして下さるなど、沢山の人々の

お支えをいただき漸くこの年度の

人件費などの手当てのメドがつけ

られました☆善意の浄財には寄せら

れた人の心が一緒にいて来ます

☆浄財は不正や不正に近い利用の

されかたをすると敏感に反応しま

す☆その人の心が曇らされたり汚

されたりするからです☆希有とい

っていいほどの純粋な思いだか

らこそ心して用いなければなりま

せん☆これが光の子どもの家の財

産であり浄化力です☆一生懸命の

年がまた始まりました。(哲)